

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870400231		
法人名	医療法人 浩悦会		
事業所名	グループホーム南風		
所在地	茨城県古河市坂間185-14		
自己評価作成日	2021年6月4日	評価結果市町村受理日	2021年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=0870400231-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的なぬくもりのある生活空間でいつも笑顔が絶えず、自分らしく我が家のように生活していただいています。食事の支度や洗濯物などの家事を入居者様からスタッフに自然と声を掛け合って出来る事を出来る範囲でご本人の自立性を尊重しながら寄り添うケアを行っている。入居者の方に困り事があればスタッフは問題解決に力を注いで安心できるように努めている。コロナウイルスの影響でホーム内で過ごす事も多い中で体操やストレッチをしたり体を動かすようにして筋力の低下を防ぎ、顔色や様子を観察し、細かい変化を見逃さないようにしています。クリニックが併設の為急な体調不良に対応ができ、定期検査や往診にも対応しているので医療面でも安心して生活していただけます。感染予防対策の為環境整備、清掃、消毒の徹底をしスタッフの健康管理にも注意している。また、静かな場所に立地しているが、周囲にはコンビニやドラッグストアなど副業施設が並び生活しやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で面会の制限や外出が難しい中、利用者の毎日にメリハリがつくよう、体操やストレッチ、家事等からやりがいをもちて過ごせるように努めている。母体法人が医療機関であり、定期検査や往診、緊急時の対応も24時間連携可能である。コロナ感染予防対策マニュアルの作成、必要物品の用意、シミュレーションを実施している。職員が個々の年度目標を立て、一年の振り返りと自己評価を実施し、レベルアップに取り組んでいる。職員はお互いをフォローし合い、自分が必要とされる、待っていてくれるところがあると感ずることが出来、スタッフの成人式を利用者も一緒に祝う等、アットホームな事業所である。
*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や休憩室、事務所に分かりやすく掲示している。毎日申し送り後に唱和する事でホーム理念を意識して業務にあたれるようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、玄関・休憩室・事務所の視界に入りやすい所に掲示しており、申し送り後に唱和して確認している。職員は家族の一人として利用者と関わり、自立に向けたサポートを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。コロナで地域の清掃など中止になっているが、挨拶を交わしたり敬老のお祝いをいただいたり交流をしている。	自治会に加入して様々なイベントや交流を重ねていたが、現在はコロナ禍で自粛している。近隣の方から沢山の野菜・お花の提供を受け、有難い。自治会から広報誌や回覧板が届き、情報は把握できる。例年通り敬老会のお赤飯と紅白饅頭を頂いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ハローワークや県社協の受け入れの登録をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続きホームでの開催と書面とで会議を行っている。今年成人を迎えるスタッフのお祝いをホームで行い入居者様も孫を見守るような温かいお祝いがあった。	昨年は書面報告で、行政から質疑・意見をもらい対応していたが、直近では、行政・近隣居宅ケアマネ・施設職員が集まって開催し、近況報告や職員の今年度の心得、日課や週間計画、今後の取り組みを報告した。家族には必要事項を広報誌に載せて知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課の方に出席していただいている。会議の際や電話で連絡を取り協力関係を築いている。こども110番の登録をしている。近隣小学校など交流をと考えているがコロナの影響もあり、現在は難しい。	市介護保険課や地域包括センター、社協とは良好な関係を築いている。子供110番は設置済み。中学生の体験学習や小学生の町探検は自粛。中学校の吹奏楽部から、演奏に行きますよ。という話を頂いているが、諸状況から検討し、実施には至っていない。ハローワークや県社協の実習受け入れを登録しているが要請は無い。ケアマネ会やグループホーム連絡協議会の開催も中止となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて3ヶ月に1回会議を行っている。ビデオ視聴や拘束の実体験などを通じて身体拘束による心身の影響や知識を深めるようにしている。	身体拘束適正化委員会、虐待廃止委員会と連携し、3ヶ月毎に会議を開催して、ケアの具体例を確認しながら意見を聞いている。拘束によるメリット・デメリットを把握し、利用者の安心・安全に向けたケアの提供に努めている。やむを得ず拘束となる場合の書類は整備している。玄関の施錠について家族に説明した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会と連携し勉強会を開いたり日々の業務の中でスタッフ同士が注意を払うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を必要としている方はいないが、今後の必要性を考え研修の参加を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項の説明と共に契約書を読み上げ更に納得の有無を確認し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、面会時や電話連絡した際に聴く事が多い。頂いた意見は必要に応じてスタッフ間で共有しホームの運営に反映させている。重要事項説明書に苦情解決責任者、国保連の電話番号を明記している。	意見箱の設置や第三者機関名を明示し、意見の言い出しにくい利用者や家族に配慮している。前回の評価を受け、重要事項説明書に苦情解決責任者と国保連の電話番号を明記した。毎月の広報誌に利用者の写真と一筆を添えて郵送している。面会は事前に連絡をもらいソーシャルディスタンスを保ち実施。ワクチン接種を関係者全員が終了した時、理事長と相談し面会をどうするか検討予定。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問点や提案など朝の申し送りの際や業務の中などいつでも聞く機会を設けるようにしている。年度末には1年間の振り返り、自己評価を提出してもらっている。	運営に関する報告は事前にある。現場の気づきや提案は、その都度、申し送りで検討している。年度末に職員の目標に対する自己評価とアンケートを実施し、就業環境の整備に努めている。管理者と職員の関係は非常に良好で、相談は夜間帯でも受け入れられ「大丈夫だよ。」という管理者の一言で安心するとのこと。お互いを思いやる働きやすい職場で、ストレスや不満はないとの事。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年間の振り返り、自己評価を行い、それをもとに就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修の受講を積極的に行っている。外部の研修も受講を考えているが、コロナの現状もあり受講できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会の開催があれば参加するようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査の段階から直接ご本人とお会いする事で要望や不安な事など傾聴し、入居後も一緒に生活する中でコミュニケーションを図りながら安心して生活ができるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時よりご家族の不安や要望など詳細にうかがい、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	症状や様々な状態に応じて、かかりつけ医を併設するクリニックにするか、継続して他院に受診するかご家族と相談して決めている。訪問歯科の受診も要望があれば対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ一人一人が入居者様を家族の様に接し、温かい気持ちで共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報を共有しながら、ご本人が安心して生活ができるよう、関係づくりに努めている。コロナの影響で面会を制限させていただいている為電話や南風だよりを通じてご本人の様子を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会は制限させていただいているが、電話や手紙の支援は要望に応じて対応させていただいている。	コロナ禍で電話や手紙が来ることが多くなった。家族や友人、遠方の親族と電話や手紙で関係継続支援を行っている。手紙が来たときは返信したり、電話で連絡を取り合う。新聞や乳酸飲料の購入している利用者がある。利用者・職員との関係が深まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	一人一人の性格などを考慮し食堂席を変更したり好きな 場所で過ごせるよう環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて相談や経過など支援をしている。 退去後にホームでの写真やDVDを作成しお渡ししてい る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人やご家族から希望や生活暦をうかがうと共に日常 の中の会話や表情などから意向の把握をし、情報の共 有をしながら入居者様本位のケアが出来るよう努めてい る。	生活歴・職歴・アセスメントから、利用者の暮らし方の意 向把握に努めている。困難な場合は表情や様子から察 知し、利用者本位に検討している。趣味の読書・塗り 絵・折り紙・家事の洗濯干し・洗濯たみ・仕分け・食器 拭き・テーブル拭き等からやりがいに繋げている。裁縫 の苦手な利用者にも、得意な利用者が優しく気長に教え ている時があり、職員はそれをにこやかに見守る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人、ご家族、関係各所などから情報を得て把握に努 めている。面会時などに得た情報もスタッフ間で共有しケ アに活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の生活の介護記録を詳細に行い、スタッフ間で情報 共有し現状の把握に努めている。毎朝体温を測定し健康 状態の観察も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人、ご家族と相談し、担当者会議により実現可能な 目標をたてている。個別記録に評価が日々記録出来る 様になっている。モニタリングや記録を基に担当者会議 でプランの変更を検討している。	利用者・家族から意見・要望を聞き、担当者会議で普段 できていることを職員から聞き、課題とケアのあり方 について話し合っプランを作成している。作成後は家族 に説明し、同意を得ている。ケース記録には目標達成 に向けたケア提供時の様子(行動・言動・表情・考察・ 関わり)がわかりやすく、記録され、介護支援経過・モニ タリング・評価から現状に即したプランの作成に繋げて いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	言動や表情など詳細に介護記録に記入、目標の評価も 行い、スタッフ間で情報共有をしケアプランに反映でき るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科の訪問診療、通院の付き添いや送迎、美容院の出張サービスなど必要に応じて対応させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で外へ出る機会が減り、地域資源を有効活用する事が難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族と相談のうえ併設クリニックがかかりつけ医となるが、他院がかかりつけ医の場合でも急な体調不良の際も併設クリニックで対応している。往診、定期検査、MMSEテストも行っている。	併設クリニックから2週間毎の往診や3か月毎の健康診断、6ヶ月毎のMMSEテストや月曜日のバイタルチェックで利用者の体調管理に努めている。変化があれば家族に報告し、ケース記録に残している。専門医受診は家族が付き添い、受診結果の報告を受け記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設クリニック看護師に状態報告、相談をし、必要に応じて診察等の指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった際は介護サマリーや電話で情報提供し、ご家族、病院関係者連絡をとりあい情報交換をして状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を行い、看取りの同意書、アンケートを行っている。看取りには入る段階にも主治医からの説明をし再度要望をうかがい看取りケアを行っている。	契約時に看取りについて説明を行い、看取りに向けた処置等の意向を聞いて同意書を取り交わしている。看取りに入る前に主治医から今後予測される症状等の説明があり、方針を確認し、再度同意書を取り交わしている。医師・看護師・家族・職員と連携をとりながら、ターミナルケアプランを作成し、悔いのない最善の幕引きのお手伝いをしている。家族からホームの職員に看取りまでをお願いしたいと言われるのは嬉しいとの事。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設クリニック医師に連絡を指示のもと対応している。スタッフ全員が救命講習を受講するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、災害時地域の方にご協力いただけるよう要請をしている。備蓄品リスト、5日分の献立表を作成している。	地震・火事・風水害災害マニュアルを作成し、年2回(消防署指導・自主訓練)を実施している。緊急通報システムは消防署と同時に職員にも通報される。水害は垂直避難としている。備蓄品(5日分のメニュー作成)・緊急持ち出し用品は整備している。地域住民に協力依頼は行っている。	利用者が避難済みであることの確認方法検討と、地域住民との合同訓練の実施を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に個人情報使用承諾書、南風だより配布に関する同意書を頂いている。ご本人の性格や要望を考慮し入浴やトイレは女性スタッフが対応するようにしている。	情報開示に向けた同意書を取り交わして個人情報保護に努めている。声掛けや日々のかかわりが馴れ馴れしくならないように注意している。入浴やトイレの介助には女性職員が対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人のペースに合わせた環境を作ったり、時間をかけて自己決定や思いが伝えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望に添った支援をしたいと思うが、入浴に関しては難しい場面もある。ホーム内で好きな場所、好きな時間が過ごせるような環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回美容院の訪問があり、ご本人ご家族と相談しカットやカラーなど希望に応じて行っている。季節に合った洋服が着られるように衣替えを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に食事の準備から片付けまで一人一人ができる事のできる範囲で行ってもらっている。行事食で出前をとったり、ケーキを提供したり食の楽しみを感じてもらえるよう努めている。	季節の食材を取り入れたメニューを、利用者の状態に応じた形態で提供している。利用者は力量に応じ、下準備・盛り付け・配膳・下膳・食器拭き・台拭き等を行う。一日のメニューをホワイトボードに書き入れ、懐かしいバックミュージックを流し、食べる楽しみに繋げている。現在はコロナ感染予防対策として職員は一緒に食べていない。目先をかえて出前や弁当をテイクアウトしたり、おやつを手作りするなど工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し日々観察している。お粥や刻み食など一人一人の状態に合わせた食事形態で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛け、準備を行い必要に応じて介助をし、毎晩義歯の消毒を行っている。訪問歯科に協力していただき、口腔ケアの講習を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、スタッフ全員が排泄パターンや回数を把握できるようにしている。言動や表情などを見逃さないよう観察し声掛けのタイミングを計り失敗を減らせるよう努めている。失敗が少ない方は布パンツの使用を検討するようにしている。	排泄チェック表をもとに排泄パターン・表情・様子から声掛け誘導をおこなっている。タイミングを図ることで失禁がなくなり、布パンツへと改善できた利用者がいる。自立している利用者には見守りと排泄後の確認を行っている。腹部マッサージや運動、水分や乳酸飲料等で便秘解消に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージや運動を行い水分摂取を心掛けている。場合により下剤を服用しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添った時間や曜日の入浴は難しいが週3回入浴できるように支援している。入浴剤を使用したり好みの温度にする等入浴を楽しめるようにしている。拒否がある方も声掛けなど工夫をして誘導するようにしている。	週3回の入浴支援であるが、汚染や希望があればその都度対応。入浴剤・ゆず湯・しょうぶ湯で気分転換を図っている。拒否者には言葉かけを工夫したり、ケースbyケースで対応している。感染予防対策は実施している。着替えの準備は自分で、もしくは職員と一緒にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングや食堂で過ごしている事が多いがその中でもテレビを見たり、窓際で景色を眺めながら日向ぼっこをしたり好きなように過ごされている。運動をしたり午後は午睡をしたり生活にメリハリをつけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の一覧表をファイルにまとめスタッフがいつでも確認できるようになっている。血圧手帳にバイタルを記録したり、症状の変化があれば主治医や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルスの影響で外へ出る機会が減っているが、ホームの中でも家事を一緒にしたり、得意な裁縫をしたり、歌番組を観て歌を楽しんだりそれぞれが楽しみや気分転換が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルスの影響で外出は病院へ受診に行く時のみとなっている。毎月お墓参りにも行っていたがそれも出来なくなっている。テラスへ出たり外へ洗濯物を干しに行ったり外の空気を吸い気分転換が出来るように努めている。	コロナ禍で外出支援は出来ていない。受診の為の外出やテラスでの日光浴、洗濯干しで外気に触れている。季節の移ろいを肌で感じてもらえるよう、外の空気に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はスタッフで行っている。居室内で現金を所持されている方もおり、トラブルの原因になる為、ご家族とも相談し少しだけにするか、できるだけ所持しないようにしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人、遠方に住んでいる親族、友人などご希望に応じて電話や手紙のやり取りができるよう支援している。ホーム内ではあるがテレビ電話も対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑飾りやクリスマスツリーなど一緒に飾りつけをし季節を感じられるようにしている。加湿器を使用したり換気をしたり、快適に過ごせるよう温度管理をするようにしている。トイレも分かりやすく大きく見えるように掲示している。	季節や毎月の変化が分かるよう、飾りつけや展示物で工夫している。カレンダーや時計を設置し、見当識への配慮がされている。コロナ感染予防として換気に力を入れている。和室には利用者が生まれ育った昭和の時代を思い出させる鏡台や人形等が置かれている。ソファでリラックスしている利用者の姿があった。トイレ・風呂場の表示はわかりやすい。職員と利用者の写真と名前を掲示されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人がリラックスした状態で過ごせるようにソファを配置して、気兼ねなく談笑ができるような空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのある家具や飾りや写真、仏壇の持ち込みをしていただいている。ご本人の状態に応じて家具を変更する事もあるが、出来る限り生活感のある雰囲気づくりを努めている。	居室入り口は名前・飾り物・手作り作品等を飾りわかり易くなっている。チェスト・テレビ・テーブル・椅子・仏壇・冷蔵庫等を動線と安全面に配慮し設置している。遺影・造花・位牌・叙勲の賞状を飾ったり、新聞・枕元にお気に入りのぬいぐるみ等を置くなど、その人らしい居室となっている。居室は職員と利用者が一緒に掃除をする。居室内の洗面所は毎日職員が念入りに磨いており、清潔感があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口の表札の他に目立つ飾りを付けたりご本人が制作したものを飾ったり、分かりやすいようにしている。トイレも見やすいように壁に表記している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム南風

目標達成計画

作成年月日 : 2021年9月19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	利用者がホームから避難済みである事の確認方法の検討、地域住民との合同訓練の実施。	避難済みの確認方法を検討し、実施する。地域住民との合同訓練の検討をする。	各居室のドアにマグネットシートで避難済みである事が一目でわかるようにする。 現在コロナ禍で面会が規制されている為、今後地域住民の方との合同訓練、訓練内容を検討する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。